FD 実施委員会主催

2016（平成 28）年度
全学 FD ワークショップ

実施日：2016 年 8 月 22 日（月）・23 日（火）

場所：東京薬科大学　教育 5 号館

2016 FD-WS 報告書
目次

・ワークショッププログラム ・・・ 1～2

・参加者名簿 ・・・ 3

・オリエンテーション資料 ・・・ 4～9

・SGD のプロダクト ・・・ 10～14

・ワークショップの様子 ・・・ 15～18

・Aグループ報告書 ・・・ 19～32

・Bグループ報告書 ・・・ 33～46

・Cグループ報告書 ・・・ 47～59

・Dグループ報告書 ・・・ 60～71

・Eグループ報告書 ・・・ 72～85

・アンケート結果 ・・・ 86～87

・終わりに ・・・ 88

学内資料

学内資料

2016（平成 28）年度　全学 FD ワークショップ　プログラム

開　催　日：2016 年 8 月 22 日（月）、8 月 23 日（火）
場　　所：教育 5 号館 2 階
参 加 者 数：薬学部 18 名　生命科学部 15 名　計 33 名
ﾀｽｸﾌｫｰｽ：各学部 5 名ずつ　計 10 名
ディレクター：笹津備規 学長、太田 伸 副学長
FD 委員代表：薬学部　高木教夫　教授、生命科学部　高橋勇二　教授
主　　催：全学 FD 実施委員会

【1 日目　8 月 22 日（月）】

時間	内容	会場
～9：30	集合	5201 講義室
9：30～9：35	学長挨拶	
9：35～10：00	オリエンテーション（趣旨説明、テーマ設定の背景も含む）	
10：00～10：15	ＫＪ法説明	
10：15～11：30	ＳＧＤ１（自己紹介を含む） テーマ「他大学との差別化を図る広報戦略について」	5203～5207 講義室
11：30～12：15	発表、5 分×5 グループ＝25 分＋総合討論 写真撮影	5201 講義室
12：15～13：15	昼食	アトリウム
13：15～14：15	講演 「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの取り組み」 講師･･･山梨大学 大学院総合研究部 工学域 教授　森澤　正之　氏	5101 講義室
14：15～15：15	ミニワーク 「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの実施方法」 講師･･･山梨大学 大学院総合研究部 工学域 教授　森澤　正之　氏 （3～4 名 1 グループで作業）	5102 講義室
15：15～15：30	コーヒーブレイク	教育 5 号館 1 階廊下
15：30～16：30	ミニワーク　続き	5102 講義室
16：30～17：30	発表、情報共有、アンケート　第 1 日目終了	5102 講義室

【2 日目　8 月 23 日（火）】

時間	内容	会場
9：30	集合	5201 講義室
9：30～10：00	第 1 日目のアンケート結果　フィードバック	5201 講義室
10：00～11：30	講演「三つのポリシーと自己点検・評価、内部質保証の確立」 講師･･･追手門学院大学　副学長　秦 敬治　氏	5101 講義室
11：30～11：40	休憩	
11：40～12：40	ミニワーク 「ＤＰ・ＣＰの見直し（学部より出されたポリシー案を使って）」 講師･･･追手門学院大学　副学長　秦 敬治　氏 アシスタント･･･ 佛教大学教育推進部教育推進課　課長補佐　平井 孝典　氏 明星大学学生サポートセンター　鎌田 雅子 氏	5102 講義室
12：40～13：40	昼食	アトリウム
13：40～16：00	ミニワーク　続き （途中各自コーヒーブレイク）	5102 講義室 教育 5 号館 2 階廊下
16：00～	発表、情報共有、アンケート、閉会式	5102 講義室

以上

東京薬科大学　平成28年度FD-WS　参加者グループ分け

A	1	中南　秀将	薬学部	病原微生物学教室	タスクフォース 杉浦　宗敏 森河　良太
	2	三浦　剛	薬学部	薬化学教室	
	3	安藤　堅	薬学部	薬学基礎実習教育センター	
	4	石橋　健一	薬学部	免疫学教室	
	5	内田　達也	生命科学部	生命分析化学研究室	
	6	関　洋一	生命科学部	脳神経機能学研究室	
	7	星野　裕子	生命科学部	言語科学研究室	

B	1	西山　貴仁	薬学部	薬物代謝安全性学教室	タスクフォース 栁田　顕郎 中村　由和
	2	藤原　泰之	薬学部	公衆衛生学教室	
	3	早川　磨紀男	薬学部	衛生化学教室	
	4	水野　晃治	薬学部	生化学教室	
	5	井上　雅司	生命科学部	脳神経機能学研究室	
	6	小林　豊晴	生命科学部	生物有機化学研究室	
	7	高須　昌子	生命科学部	生命物理科学研究室	

C	1	柴崎　浩美	薬学部	臨床薬学教室	タスクフォース 成井　浩二 浅野　謙一
	2	緒方　正裕	薬学部	薬学教育推進センター	
	3	根岸　洋一	薬学部	薬物送達学教室	
	4	横須賀　章人	薬学部	漢方資源応用学教室	
	5	中野　春男	生命科学部	環境応用動物学研究室	
	6	長島　駿	生命科学部	分子生化学研究室	
	7	渡部　琢也	生命科学部	心血管医科学研究室	

D	1	山口　宜秀	薬学部	機能形態学教室	タスクフォース 横山　晴子 小島　正樹
	2	矢内　光	薬学部	薬品製造学教室	
	3	今田　啓介	薬学部	薬学基礎実習教育センター	
	4	柳　　茂	生命科学部	分子生化学研究室	
	5	米田 敦子	生命科学部	ゲノム病態医科学研究室	
	6	西躰　元	生命科学部	免疫制御学研究室	

E	1	恩田　健二	薬学部	臨床薬理学教室	タスクフォース 川口　崇 井上　弘樹
	2	高島　由季	薬学部	製剤設計学教室	
	3	林　秀樹	薬学部	応用生化学教室	
	4	梅村　真理子	生命科学部	環境応用動物学研究室	
	5	田中　弘文	生命科学部	細胞制御医科学研究室	
	6	宮川　毅	生命科学部	情報教育研究センター	

ワークショップの様子

第１日目

開会式・オリエンテーション

ＳＧＤ１（自己紹介を含む）　テーマ「他大学との差別化を図る広報戦略について」

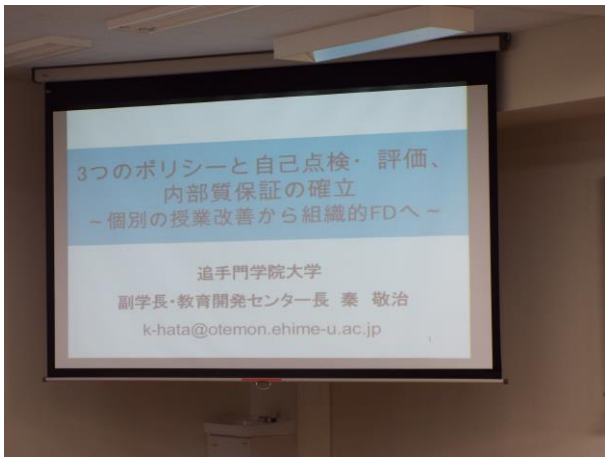
発表・合同討論　１

講演「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの取り組み」
92 名の教職員が参加しました。

講師　山梨大学 大学院総合研究部 工学域　教授　森澤　正之　氏

ミニワーク「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニングの実施方法」
Screencast O matic を使った事前学習動画を森澤教授指導のもと作成しました。
作成した動画は個々の報告書に記載。

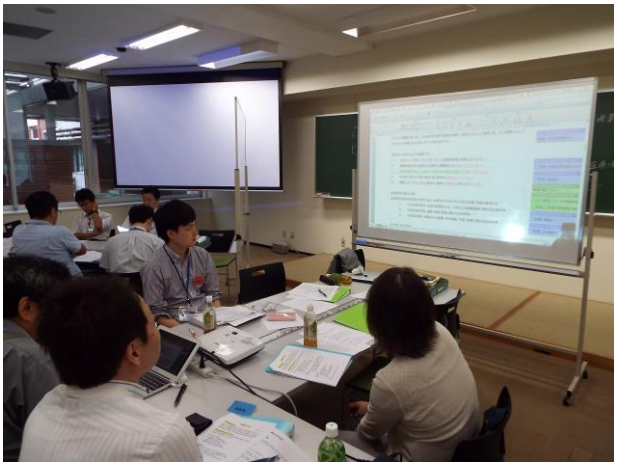
第 2 日目



講演「三つのポリシーと自己点検・評価、内部質保証の確立」
講師　追手門学院大学　副学長　秦 敬治　氏
140 名の教職員が参加しました。

ミニワーク「ＤＰ・ＣＰの見直し（学部より出されたポリシー案を使って）」
講　師　　･･･追手門学院大学　副学長　秦 敬治　氏
アシスタント･･･佛教大学教育推進部教育推進課　課長補佐　平井 孝典　氏
明星大学学生サポートセンター　鎌田 雅子 氏

学科ごとにディプロマポリシーの見直し作業を行いました。

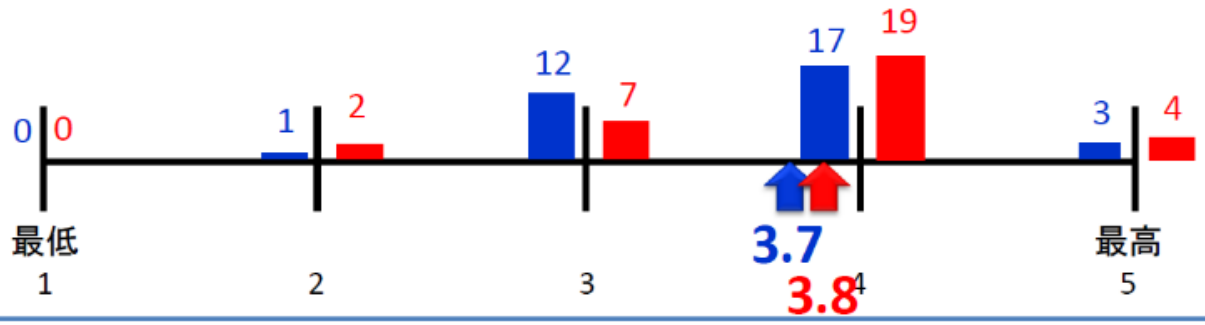


発表

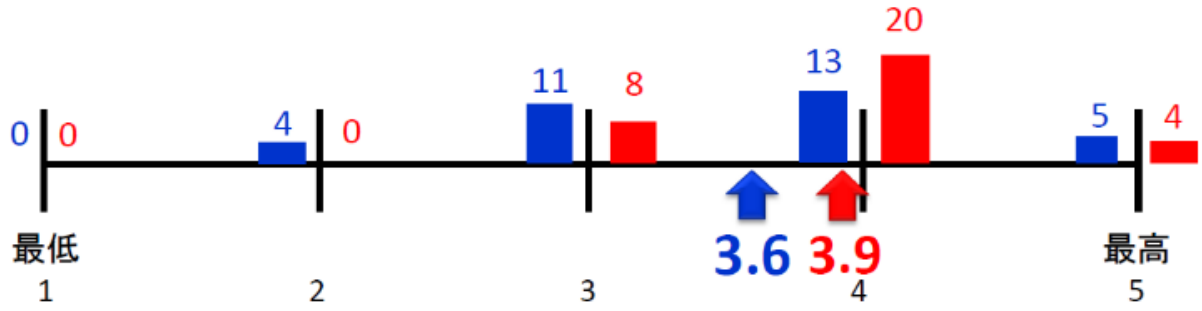
2日間の評価

1日目回答者33名　青色
2日目回答者32名　赤色

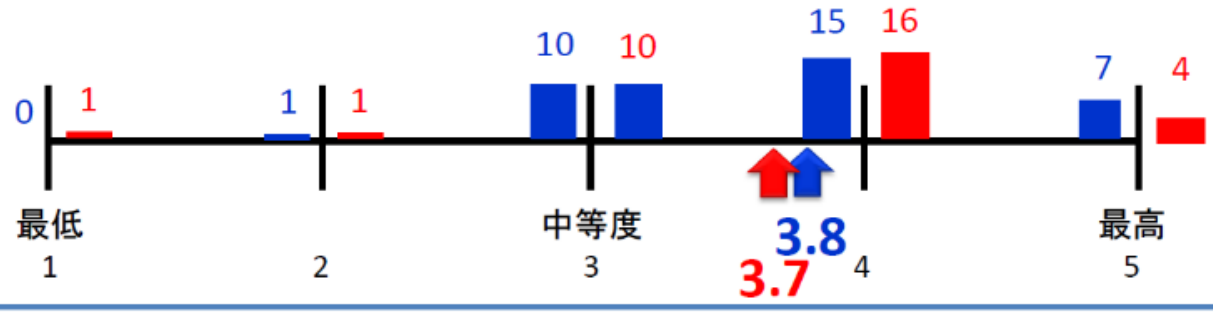
今日のワークショップの流れにスムーズに入りこめましたか。



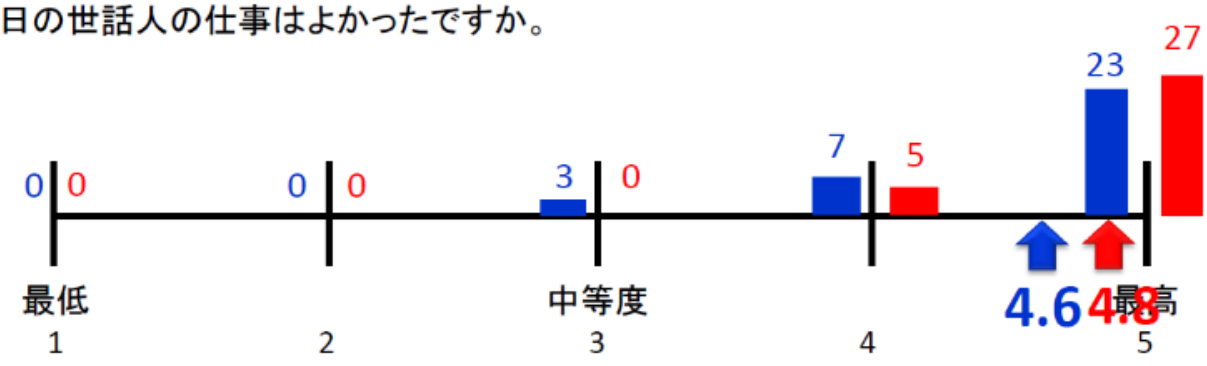
今日、あなたは討議にどの程度参加しましたか。



今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



今日の世話人の仕事はよかったですか。



来年度に向けての要望・提言

少人数ディスカッションのテーマ

- 他大学と差別化を図るための「広報戦略」よりも、そのために薬学・生命科学部で取り組むべき「共同研究」について議論してはどうか

配布資料について

- 報告書のフォーマットは事前に送信してほしい、ワークショップ中に入力したい。
- ScreenCast（動画作成ソフト）の使用マニュアル、動画のアップロード方法はスライドにして事前配布してほしい。

日程について

- 来年からワークショップの日程を考慮してほしい。卒論提出の締め切り前に設定しないでほしい。

『終わりに』

FD 実施委員会　委員長
山岸　明彦

教員の資質は、大学における教育の質を決定的に左右する。この教員の資質を高めるというのが FD 活動の目的である。東京薬科大学 FD 実施委員会が主催する FD(Faculty Development) WS (Work Shop)は毎年ほぼ 1 回開催され、今回で第 5 回目になる。

本学 FD-WS の目的はいくつかあげる事ができる。第一に、薬学部と生命科学部、両学部の教員間の相互理解を深めることがある。両学部の教員は、顔をあわせることがあっても、話をする機会は少ない。話をする機会があっても、教育論を議論する機会はほとんど皆無である。WS では、教育論をかわす濃密な時間を共有する事、共同作業を行う事で、質の高い同僚意識の形成を目指している。

第二の目的は、大学教育論の最新の理論に触れ、大学教育方針を常に検証する事である。教育学とりわけ成人教育理論の進歩は著しい。今回の森澤教授の講演でも、「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニング」という画期的な講義方法が紹介された。また、秦教授の講演と平井、鎌田両氏の補佐で実施されたミニワークでは、本学の各学科で目指すべき教育の目標（学位授与方針）が検討された。本学における教育方法の絶え間ない改良の契機とすることが本 WS の第二の目的である。

第三の目的は、教育方法の中でも SGD（Small Group Discussion）を参加教員が実体験することである。教員がその教育方法を変えようとする際には大きな障害がある。その障害の最大のものは、教員自身が受けてきた教育と教育方法の呪縛である。大学教育課程を変えようとするという事は、すなわち現教員は教育課程変更前の教育しか受けていないことを意味している。本 WS では、成人教育において様々な長所を持つとともに、実施体験なしにはその意義も方法も理解しにくい SGD の実体験を得ることが第三の目的である。

本学 WS は、日本における薬学教育改革を主導するお二人（笹津学長、大野教授）のもとで、開始され回を重ねて来た。今回は生命科学部高橋勇二教授、薬学部高木教夫教授が中心となって、ワークショップのプログラムを組んで頂いた。教育の成果が「学習者の行動に価値のある変化をもたらすプロセスである」と定義するならば、本 FD-WS が学習者である参加教員の行動に価値のある変化をもたらした事は、参加者の各報告を見れば間違いが無い。そういう意味で、大変有意義な WS であったと言える。タスクフォース、事務部各位および積極的に参加した参加者各位に感謝し、敬意を表する。

平成 28 年 9 月